

広報かわにし

発行所 川西郡 吉作社
発行人 中村 幸作
編集人 金子 南風
印刷所 白南

人口の動き	
(5月1日現在)	
男子	7,391人
女子	7,580人
男女計	14,971人
世帯数	2,767世帯

選挙 公明結果 開票

多かつた無効票

知事県議選終、わる

全県民が注視のうちに、県知事、県議会議員選挙のすべてが終わった。

知事には北村一男氏が、地区の県議には高橋正治氏が当選して、これから四年間の県政をなうことになったわけである。

はたして公明選挙であつたかどうか、みなさんといつしよに町の開票結果を検討して、問題点のいくつかをとり上げてみたい。

はじめ低調といわれた選挙ではあつたけれども、投票率八十二パーセント(県平均は八十三・九)をうねつたのは、県政に対するわれわれの動向を示すものとして注目されるが、昨年五月の衆院選に比べて五パーセント減少していること、無効票がめだつて多かつたことなど、決して自慢できる数字ではない。

とくに知事と県議の用紙をまちがえた投票が、無効票の過半数を

占めていたのは何としても惜しいことであつたし、白票やいたずら書きが今までよりもずつとふえていくことや、だれに投票したのかを確かできなかったものなど、有権者の自覚はもちろんのことだが再びくり返してはならないだけに公明選挙運動の再検討や投票所の管理改善にも、大きな問題を投げかけてくれたといえる。

また主権者として行使する貴重な一票であるのに、無効を承知の記号符号や、皇太子さま御夫妻をはじめとしてタライラマ、月形半平太など常識ではとつてい考えられない投票をした多くの人たちに、強く反省を求めるとはほかにない。

ともあれ身近な選挙戦であつたにもかかわらず、悪質な違反者がなかつた(川西郡長派出所の調)のは、公明選挙運動が徹底して、選挙の重要性が強く認識されてきたからであらうか。

参議院の通常選挙(六月二日)も近いだけに、みなさんが今次の結果をよく検討して、正しい一票を投せられるように期待している。

開票の結果(川西町)

選挙当日の有権者数 八四五二人
(男四〇四三、女四四〇九)
投票者数 六九四四人
棄権者数 一五〇八人
(男五七三、女九三三)
投票率 八二・一六%
(男八五、八三女七八、七九)

県議会議員

投票総数 六九四四票
有効投票 六〇〇九票
無効投票 九三四票
持帰り 一票
得票数 (内は全部)
高橋正治 四一五六票
(三三、〇〇六票)
藤ノ木利一 一八五三票
(九、二二八票)

町づくり

▲酒は百薬の長」とかいわれて酒酔いのすることは昔から難のないものとされてきた。実際疲れたときや、気分がくさくさしたときに飲む酒の味は格別だし、飲めば騒いでみたくもなつてくる。

▲盆を重ねているうちに酔いがまわつて、歌つたりおどつたり、果ては雄弁家になつたりして、はたからながめてもおおまじいような酔つばらひは、飲むことによつてあすへのエネルギーを蓄えることのできる人だらう。

▲ところがである。飲むほどに目が血走つて見るもの暗くものがるべきであらうか。

町づくりの喜び

▲酒飲み同士の争いは別として、全然無関係の人にケンカを吹きかける人があつても、「酔つていから」といい加減にあしらつたりすることが、悪質な酔つばらひをますます増長させる結果にもなるのではあるまいか。

▲「ネエ君、オレは酔つたから言らんじやないぞ……」と、ふだんおとなしい人がガゼン強くなつて正気のときはとても口にできないことまで全部はきだそうとする。

所詮は酒という武器がなければ言うことのできない、小心の人と見るべきであらうか。

町づくりの喜び

室島橋てきる

希望の室島橋が完成した四月二十七日、喜びの地元で盛大なしゆんこう式が行なわれた。「永久橋がほしい」というみんなの願いが実つて、国、県の恩恵に浴することができたのは、民主市政のもたらした大きな力である。

仙田内の永久橋はこれぞ三つになつた。荒瀬橋(松代町との境界)の補修工事も四月中に終わつた。もう一つ仙田橋が永久橋に突つてこの道が整備拡充されれば長岡―直江津間の主要路線として脚光を浴びることだらう。バスやトラックが自由に走れるのも、そ

にさつたり、相手かまわずにやらんだりして、思はずマユをひそめたくなるような酔つばらひを、われわれはちよいちよい見かけるのである。

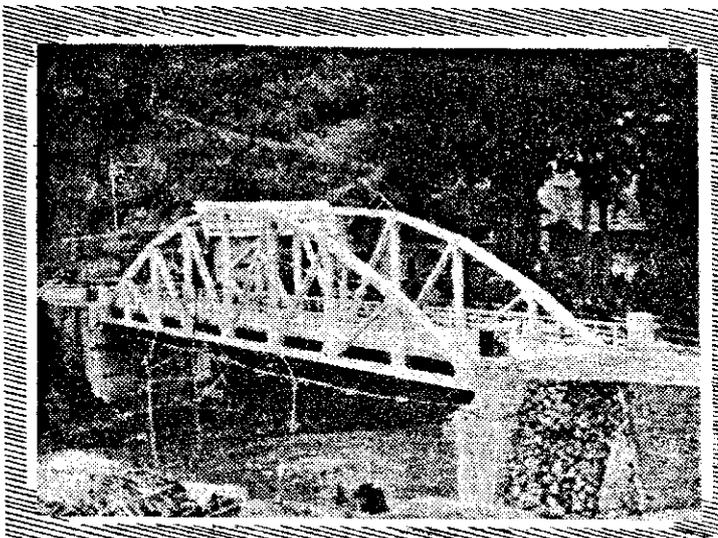
▲酒飲み同士の争いは別として、全然無関係の人にケンカを吹きかける人があつても、「酔つていから」といい加減にあしらつたりすることが、悪質な酔つばらひをますます増長させる結果にもなるのではあるまいか。

▲「ネエ君、オレは酔つたから言らんじやないぞ……」と、ふだんおとなしい人がガゼン強くなつて正気のときはとても口にできないことまで全部はきだそうとする。

所詮は酒という武器がなければ言うことのできない、小心の人と見るべきであらうか。

▲われわれはときおり「酒酔い」を見かける。そしてときにはからまれてくることがある。相当の社会的地位にある人が、公衆の面前で酔つばらつてすぐシユウタイを演じ、「よくまああの人々が……と人格を疑いたくなるようなこともしはしばだが、一般や子どもたちには与えるマイナスを考えると、全くつ然とせざるを得ない。

▲「イヤアアアア、ゆうべはずつかり酔つてしまつて……」と言つてみたところで、「羨ましい……」というあの日の印象は終生消すことができないのである。飲めるだけ飲むことはその人の自由であらうけれども、無関係な他人にまでめいわくを及ぼすような飲みかたは絶対につしんでいただきたい。あえて痛耳者の益者を促すゆえんである。



写真：室島橋の全景
全長 四二米、巾五、五米
工費 一千七百四十万円
撮影……押木秀治



機械揚水で十二町歩

三百四十石の増収か

山王原の開田終わる

山王原の開田事業がすつかり終りつて、総面積十二、五ヘクタール(約十二町五反)という、りつばな水田ができた。

関係者の血と汗の苦労が実つてこれまであらかた山林だった荒地に、ことしから米がとれるという喜びをもたらしてくれたのである。山王原(さんのつばら・小根岸地内)に大規模な開田事業が始められたのはきよねんの十一月、土地利用度の向上を図つて経営規模を拡大し、農家経営を安定させようということが目的だった。

総工事費七百万円、このうち開田工事費三百万円は、農林漁業資金として非補助融資二百万円(年五分で十八年償還)を受け、残りは受益者が負担した。

かんがい工事費四百万円については、国から新農村事業補助金が百三十五万七千円交付され、農林漁業資金として融資金百五十万円(年六分五厘で十八年償還)を借り受け、あとは受益者の負担によつてまかなわれた。

問題となつた水原も、干発放水路の末端から開田現場まで三十七米の揚水に成功し、付帯するコンクリート水路は二千四百三十米にも及んでいる。

増加することは、町の将来に明るいものを感じさせてくれる。南農農林係長の話。機械開墾による稲作栽培ははじめての試みだが、これから普及の技術的な指導によつて、りつばな成果が得られるように期待している。借入金ではできるだけ短期間に償還するようにしたいと思う。(写真は山王原の全景 現場にて小林伝司撮影)

町で中堅青年育成

農業センターで実習指導

川西町青年建設班本部(農業センター内)では、町の中堅となる農村青年を育成して郷土の振興を図るため、次の要項で青年建設班員を募集している。

これは町が国や県の指導によつて実施するもので、期間中は農業センターで合宿生活を営み、町の公益事業に従事して生活費をまかないながら、新しい知識技能を習得しようというものである。

は転出証明書といふ。異動した場合には必ず届け出てください。町外(県内や県外)に異動するときは、転出証明書を持参しなければならぬことになっていふ。(町内の異動には転居届が必要) 転出証明書を携へて行つたときは、転入地の市役所または役場に届け出て、配給を受けることや住民登録の住所変更の手続きをしなければなりません。この町に帰つてくるときも同様です。自家保有米のある方は、とかくこの異動証明書をなごさりにしがちであり、それを忘つているために紛失したり、住民登録や世帯台帳に登録されなかつたりしてあとで困ることがあります。手続きだけはまちがひなく行なつてください。(戸籍係)

戸籍の窓から

(四月分)

うら声：御すこやかに

- ◎百島玄次郎(玄親長男)中島町
- ◎柄沢一也(林平長男)沖立田
- ◎中洋一(義文長男)仁田の小幡義則(藤吉長男)仁田の川公章(保昭二男)仁田の田中正春(政司二男)仁田の山崎恭義(正徳長男)寺ヶ崎◎星名むつ子(忠一五女)上野◎渡邊春美(一雄二女)新町◎上村智恵子(勇長女)下平新田◎高橋順子(喜佐雄三女)三領◎田中英行(一二長男)小白倉◎登坂恵子(久長女)赤谷の登坂正行(富雄三男)赤谷の桑原利洋(国雄二男)大白倉◎川崎恵子(耕作長女)越ヶ沢◎桐生良子(梅治三女)大白倉◎高橋文子(虎次長女)高倉◎田畑昭市(正作長男)赤谷◎青木春美(益栄長女)小原

たかさご：御円満に

- ◎高橋栄一(高倉)春日チヨ(梅沢から)◎高橋秀一(赤谷)小川京子(赤谷から)◎中条 猛(岩瀬)樋口 明(中仙田から)◎丸山莊平(東善寺)小片節子(長岡市から)◎連田正一(中島町)小林みよ(沖立から)◎柳 昌(学校町)鈴木きみ子(高崎市から)◎高橋一喜(中屋敷)高橋レイ子(伊豆から)◎南雲藤平(中屋敷)

- ◎入田ハツエ(稲葉から)◎中村 義雄(木島へ)中村ヨシ(木島)◎中村貞吉(木島)高橋カツイ(高倉から)◎田辺芳松(高原田)清水フサ(寺尾から)◎野沢正夫(野口)相崎 幸(沖立から)◎

季節労働者募集

群馬、長野の両県で、六月中旬から下旬までの季節労働者(表刈り、田植え)を募集しています。資格は満十八才以上四十五才までの男女で、一人前に農業のできる者。任込み一日の実働十時間の手取り三百五十円(群馬)から四百円です。このほか全期間を働いた人には旅費が支給されます。希望者は五月二十日までに役場(社会係)あて申し込んでください。詳細をお知らせいたします。

☆庁内人事☆

◎依願退職、小川 京(仙田支所 四月二十日付)◎戸籍係へ、柄沢ヒサ(社会から)◎農林係へ、宮昭一(戸籍から)◎農業委員会へ、高橋トシ(出納係へ、小林竹野◎税務係へ、大渡充子(社会係へ)◎品徳子(四名とも臨時職員)

危い！道路上の遊戯

これから多い交通事故

四月六日の夕方、町の某路上で遊戯中の子どもがおりから進行中の軽自動車に触れた。危いところでひかれそろうになつたのは三月四月の坊や、運転者はかくいふ筆者である。痛めをされた坊やに対してはもちろん、御家族の心痛を思うと、身を切られるよりもせつなかつた。幸いなことに軽いケガですんだけれども、場合によつては命を失つたかも知れない。坊やもすつかり元氣になつたまま、身をもつて体験したあのような事態を、絶対にくり返してはならないと肝に銘じている。ほんとに人ごとではない。いまだこで：：あすはアナタが：：大ケガをするかも知れないのだ。「ワタシにかぎつて：：」とはいつても、それを断言できる人はいないだろう。いつたうらら交通事故を防止できるのか。ここに関係者の意見を伺つてみた。

交通道德の徹底を

藤田省三

運転者はおもろんだが、一般の歩行者がよく規則を守つてくれることと、子どもの路上遊戯をなくさないかぎり、事故の防止に万全を期することはできないだろう。日ごとに交通量が多くなつてゆくのもかわらず、道路を利用する側の考えかたが旧態依然としてゐる現実：：車が増加するにしたがつて一般からもよく考へてもらわなければならない問題だ。とくに子どもの路上遊戯やひとり歩きなどは取締りの対象となつており、幼児を道路上に放置した場合は、保護者連の責任を追及されることになる。

通学道路を完全に利用してほしいし、千手の子どもさんは自転車の二人乗りを平気でしているが、これは絶対にやめてほしい。とつても危険性が多いからだ。「交通環境改善の徹底」ということが、ことしの県警察本部の重点目標になつている。路上遊戯をやめ、道路上の放置物件を掃拭して、お互が正しい交通道德を確立してゆくように、みなさんの協力をお願いしたいと思う。事故が起すてからでは遅いのである。
(川西巡査部長派出所長)

神風運転にヒヤ汗

田中三郎

全国で一日平均二十一人の死者と、二百三十人の重傷者を出している悲惨事を、歩行者も運転者

も、もつと真剣に「恐ろしいものだ」という觀念に徹していただきたい。

人命の尊さを守るために制定されている交通法規であるのに、対面交通が完全に実施されなかつたり、路傍に幼児のひとり遊びをほしのままにしたりする住民の無関心もさることながら、制限速度をはるかに越えた神風運転にもヒヤ汗三斗の思いがする。

千手地内の大通りは時速三十キロの制限地域であるが、バスを除くほとんどの車が、時速五十キロ以上と推定される速度で疾走している。まさに殺人行為に等しい無暴操縦である。

事故の防止には①取締関係者②運転者③住民、の三者の協力体制が絶対に必要なことから、交通モニター制度を実施してみたらどう

ある村の常会風景

若い区長が熱心に議題の説明をしている。百人余の区民は黙々と聞いてゐる。説明が終わつた

区長は「質問や意見があったら発表されたい」とつたら発表された。いとはかつたがだれひとり答へる者がな

出身町職がくだけた補足説明をして、もういちど発言を促したが、あいかわらずノーコメント、(何か気に入らぬことがあるのか)こんな疑問が区長の頭をチラつかすめる。

しかし近ごろは毎度のことなので、きよらはちよつと脱教をする「みなさん、常会はお互いが村

だろつか。運転者から見た歩行者の実態、歩行者から見た運転者の実態、そして各自のほかにくめいやくを及ぼす違反者には、相互に警告し合い、注意し合つて話し合いを行なうことにし取締官はこれら基礎として生きた民主的な指導を行なつてもらいたいと思つた。それは各地域、各部落ごとに、自発的な交通事故防止委員会を作つていただきたいものである。
(運転者協会・川西支部長)

庁内めぐり(7)

議事事務局の巻

町村自治に対する議会の使命が十分達成されるためというところから、議事事務局の法制化が実現して保が事務局に変わつたのは昨

ために知恵を出し合う場所です。よい意見を出された方は、それだけ村のために貢献したことになるのです。区費を納め、義務人夫に出るだけが村のためではありません。したがらば、牛の角を蜂が刺したほどの反応もなかつた。

終戦直後の常会は、自由だ、民主主義だ、男女同権だといふん

活発だつたのだが、いつしか発言する階級と、聞いてばかりいる階級とに別れてしまつた。発言の多

い者はそれだけ責任が伴つて犠牲も大きくなり、出す物は人よりも多く、受ける物は少なく、ままつ

年十月のこと。ここで行なわれる提案、審議、採決はあくまでも法に適した運営でなければならず、そのためには常に議会運営の知識を学んで、細心の注意をはらつてゆかなければならないといえる。予算決算の議案が終わつて、いまま記録の整備に忙しいふたりの職員は、議決と執行のかけ橋とでもいふべきである。

小川事務局長(越ヶ沢)は合併前の仙田村収入役で石部金吉(失礼の意味ではない)といわれたほどのカタツツ。かつて行政監査の

努力を続けてくれる人でもある。丸山精二郎氏(原田)また才牙にすぐれて、全くナンセンスのつけ

「と顔をしかめるし、出る釘は打たれるのな、妻子に骨を折らせてまで人の世話はできないと悟ると、発言することがバカバカしくなつて黙つてしまつた。

今もシャベリ食を取られるのがバカだからみんな黙つてゐるが決して意見がないわけじゃない。自分の損得にかかわる話になれば

ようがないデキフツだが、しいていへば踊りも歌よりもサカタチを得意とする人。本紙にとつてもなくてはならない人だし、合併前に氏が編集を担当した公民館報「たはばな」が、常に県を代表する広報紙であつたことはあまりにも有名な話である。

中子遺跡(上野)

発掘調査のお知らせ

中子遺跡の発掘調査を、次の要項で実施することになりました。それぞれ御案内申しあげるときはありますが、本紙をもつて通知に替へさせていただきます。
(教育委員会 公民館)

発掘調査要項

- ①調査の主管 慶応義塾大学文学部考古学研究室
- ②発掘の場所 川西町大字上野甲二九二番地(中越バス仙田線、元町下車)
- ③土地の所有者 富井源蔵 入沢之天 押木精作 渡辺登 富井政治 上村新蔵 清水吉雄 富井隆 渡辺金一郎
- ④調査の期間 五月十五日から十九日まで
- ⑤発掘担当者 日本考古学協会委員長 藤田亮策 東京学芸大学教授 藤田亮策 慶応義塾大学教授 松本信広 慶応義塾大学助教 清水渡三 日本考古学協会会員 江坂輝弥
- ⑥遺跡の種類 縄文文化の後期から、晩期前半の集落址と配石遺構

